

行政学 A		講義	准教授 黒沢 賢一	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 専門選択科目、経営・経済 コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23022203	

1. 授業のねらい・概要

現代においては行政が国民生活のさまざまな分野に介入し、国民生活のあらゆる側面でサービスを提供する行政国家化が進んでいる。この授業ではその役割がますます大きくなりつつある行政とは何かについて、その基礎となる理論と現代日本の中央行政(国家行政)の仕組みについて学んでいく。

国家公務員、地方公務員をめざす受講生にとっては、将来、自らがその担い手となる行政についての基礎知識を身につけられる機会にもなる。また行政学は公務員試験の専門科目でも出題されるので、授業では大卒レベルのあらゆる試験の出題内容をふまえて試験に出るポイントも解説し、この授業だけで合格ラインをこえられる知識を修得できるようにする。

2. 授業の進め方

板書をしながら解説する講義形式で進める。学説や理論を解説してだけでなく、その日の授業テーマに関連する行政に関する時事問題も積極的に取り上げ、理論と現実との懸け橋となれる講義をめざしていきたい。

3. 授業計画

1. ガイダンス	<組織理論>
2. 行政の概念 <行政学説史>	9. 組織の形態
3. 行政学の起源/官房学とシュタイン行政学	10. 組織理論の変遷
4. 現代行政学の形成/政治行政二分論	<現代日本の中央行政>
5. 現代行政学の展開/行政管理論	11. 日本官僚制論
6. 現代行政学の展開/政治行政融合論	12. 日本の行政組織
7. 行政統制と行政責任論	13. 行政委員会と審議会
8. 能率の概念	14. 日本の予算決算制度
	15. 現代行政の課題と展望

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は講義ノートを必ず読み直し、授業時に紹介された参考文献等があれば、それを読んでさらに理解を深めて欲しい。そのための復習時間は1~2時間程度、必要になる。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後に評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

- (1) 行政学の基礎理論が理解できるようになる。
- (2) 中央行政の仕組みや制度がわかるようになる。
- (3) 行政に関するニュースや時事問題について自分の意見や考えを言えるようになる。
- (4) 大卒レベル公務員試験の問題が解けるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業に取り組む姿勢(50%)とレポートの結果(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。参考文献はその都度、授業の中で紹介していく。

9. 受講上の留意事項

授業中は板書したことをしっかりノートにとり、また授業はただ聞いているだけでなく説明の内容をメモを取りながら聞く習慣を身につけること。

授業中の私語やスマートフォン等の使用、他の受講生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意しておくこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は地方議会における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。